

---

# 非日常的現実的非日常

藍色

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

非日常的現実的非日常

### 【Nコード】

N63100

### 【作者名】

藍色

### 【あらすじ】

突然であつた彼女はいきなり僕の顔面に蹴りをくらわせて僕に多大なダメージを与えた後に

「初めまして。こんにちは。死んでください。」

と満面の笑みを浮かべて言った。

「・・・・・・はあ？」

僕の人生に最大の影響を与えた「彼女」との出会いはあまりにも突然だった。

## NO1\*始まりとかつて突然なもの

突然であった彼女はいきなり僕の顔面に蹴りをくらわさせて僕に多大なダメージを与えた後に

「初めまして。こんにちは。死んでください。」

と満面の笑みを浮かべて言った。

「……はあ？」

僕の人生に最大の影響を与えた「彼女」との出会いはあまりにも突然だった。

月は9月、日は13日、曜日は金曜日の午前中のことだった。

その日はとてもよく晴れていてとても過ごしやすい天気だった。

学校が終わった後の放課後、こんないい天気の日には部屋でじっとしているなんてもつたいたいと思つた僕は散歩に出かけることにした。別に親にこいつはなぜいつも勉強をやらないのか？というふうなことを目で訴えかけられたからではない。本当にそんなことは断じてない。

……たぶん。

まあそんなくだらないことはおいておくことにして、今僕の目の前でおきている状況について誰か説明してくれ。

あまりにもあり得ないことが本当に突然に起きている。

……とりあえず状況を一から整理してみようと思う。

まず僕は家を出た後に公園に行った。

それから公園のベンチで半分寝かけていた……いやたそがれてい

たところにガラスの割れるような音が聞こえて目を開けたら目の前に金髪で背が高くメガネをかけた16歳くらい・・・僕と同じくらいの年ごろの女の子がバットを持って仁王立ちしていた。

その子は僕と目が会うとにやりと楽しそうに笑った。そして彼女はいきなり僕の顔面に蹴りをくらわせて僕に多大なダメージを与えた後に

「初めまして。こんにちは。死んでください。」  
と満面の笑みを浮かべて言った。

僕はその突然の出来事に頭が回らず

「・・・・・・はあ？」  
と思わず声を出した。

それに対して彼女は自分の後ろに指をさしつつ

「この状況なんとかしてほしいのです。まあ何とかするには命かけないと無理だと思うのですよ。だから私のために死んでください。」  
と先ほどと変わらない笑顔で言った。

これが僕の非日常的現実的非日常の始まりだった。

## NO1\*始まりとかつて突然なもの(後書き)

なんだかすごく短いです><;  
すみません。なんとなくストーリーが思いついたのでやってみまし  
た！  
できるだけ更新したいです^^

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6310o/>

---

非日常的現実的非日常

2010年11月1日02時19分発行